

旧天界寺の井戸



旧天界寺の井戸は、首里に多くみられる掘り抜き井戸のなかでも貴重な、由緒ある井戸といえます。

首里城から西側へのびる丘に建っていた天界寺は、尚泰久王代(1454~60年)の創建です。寺の建っていた周辺の地形は、石灰岩の厚い層が広がっています。そのため創建以来何度も井戸を掘ってみましたが、地下水を掘り当てることができませんでした。尚貞王代(1669~1709年)の1697(尚貞29)年に、寺僧の了道が蔡応瑞に頼んで広く場所を調べさせて井戸を掘ったところ念願の水が出たこと、水質もよく、日照りの時にも渴れないので寺の用水だけではなく付近住民の用水にもなったことなどが『球陽』(1745年)に記されています。

井戸の内部の形は、岩の層を垂直に掘り下げながら、下方に向かって幅を広げ、地下の水面あたりではほぼ半球形になっています。そして内壁を固めた緻密な石組み等は、当時の優れた土木技術、石工技術を知るよい資料といえます。井戸口に接して東西に木柱を建てた跡が残され、その二つを結ぶ延長線上にある石垣の上には、角柱形の石があります。かつてこの石に梁をかけた板葺屋根があったといわれています。

(資料提供:那覇市文化財課)



シリーズ
第2回

那覇の 井泉(湧き水)

那覇市は古来から飲料水に乏しい地域で水道ができる以前は天水(雨水)、井戸(カー)や樋川(ヒージャー)が水源として人々の生活を支えていました。

井戸(カー)や樋川(ヒージャー)を総称して井泉(せいせん)といい、那覇市内には約120ヶ所の井泉があり、また、その中には文化財に指定されているものもいくつかあります。今回は、首里城近くの『旧天界寺の井戸』を紹介します。



あなたの節水アイデア大募集! 備え付けのはがきであなたの節水方法を教えてください!

平成16年度

水道モニターを 委嘱しました

那覇市水道局では広報・広聴活動の一環として、水道を使用されている市民の皆様の中から毎年モニターを募集し、会議を通して、意見の収集など様々な活動を行なっています。

6月4日(金)に、平成16年度水道モニターの委嘱式を行いました。今年度は20代から70代の男女幅広い方々から、41件の応募をいただきました。その中から15人を選定し、高嶺水道事業管理者から直接委嘱状が交付されました。

委嘱式終了後には、第1回会議が行われました。初回ということで、雑談形式で会議が進められましたが、水道料金や家庭内配管など身近な問題への質問を中心に多くの発言があり、皆さんの熱意を感じる会議となりました。



委嘱式の様子

7月16日(金)には水道施設見学を行いました。泊配水池、北谷浄水場、海水淡水化センター、倉敷ダム、集中監視センターの順に各施設を巡り、日頃入ることのできない施設について楽しんでもらうと共に、水道が家庭に届くまでの行程や、各施設の役割について学習していただきました。

施設見学感想

<原園さん>

・泊配水池にて
新都心の中心的な場所に、このような配水池があるのを初めて知りました。大変立派な施設です。特に塩素の濃度が常時監視されていることは大変安心し、心強く思いました。



<渡平さん>

・海水淡水化センターにて
以前から海水淡水化センターの事は知っていましたが、中を見学するのは今回が初めてです。まだ浄水場の水とのコスト差があるようなので、更なる研究を望みます。



水道モニターに関するお問合せは・・・水道局企画経営課 832-4173 まで